

柴谷麻以

JOSHIBI no.191



自分らしいデザインで 社会の課題を解決したい。

電通のアートディレクターとして
NHKの人気番組「ねほりんぱほりん」の
アートディレクションを手がけるほか、
2019年度のADC賞を受賞するなど、
目覚ましい活躍を遂げている柴谷麻以氏。
そんな彼女のベースになっているのは、
女子美で培われた豊かな感性と、
グラフィックデザインへのあくなき向上心でした。

Photo 玉村敬太 Text 立古和智

デザイン関係の仕事をする両親と、美術館が好きな家系で、幼い頃から美術に触れて育ちました。小学生の頃は、絵画コンクールで入選したり、私が描いた絵を観て友達喜んでくれる姿が嬉しくて、絵を描くことが好きでした。女子美の付属中学に進むと、当然です。絵が上手い子がたくさんいて、「もっと上手くなりたい」と刺激されたものです。いろんなタイプの同級生がいるここでは、みんなの共通項は美術です。そのおかげか誰もが分け隔てなく仲良くなります。もちろん、学校行事では一致団結。運動会だと先生の着せ替えリレーに熱中しました。女子美祭ではクラス展示の企画を通すために、遅くまで友人宅で準備に没頭したことも。なかでも思い出深いのが「祝い隊」です。これは誕生日を迎える友人を盛大に祝うサブライズイベントで、友人を主人

公にした脚本にアフレコしてBGMをつけたドラマCDを作ってお祝いします。このおかげで、周りの人ともものづくりをする楽しさに目覚めました。

大学で絵画ではなくデザインを専攻したのは、誰かのために何かを作りたいと思ったからです。絵画では自己表現から問題提起をしますが、デザインであれば問題提起の先にある問題解決にまであわよくば手を広げられます。そのあたりも決め手になりました。実際、大学ではグラフィック、プロダクト、環境など、さまざまな分野のデザインに触れることで視野を広げることができました。でも決して真面目な学生だったとは言えません。勉強よりも、有志を募ってテレビの仮装大賞への出演にのめり込むタイプ(笑)。みんなでアイデアを出し合い、ダンボールをかき集めて衣装づくり

柴谷麻以(しばたに・まい)

2010年に女子美術大学芸術学部デザイン学科VCDコース(現デザイン・工芸学科ヴィジュアルデザイン専攻)卒業後、株式会社電通へ入社。アートディレクターとしてNHK「ねほりんぱほりん」やJR東日本「交通系ICカード全国相互利用マーク」を手がける。ヤフーとの共同プロジェクト「3cm market」で、2019年度ADC賞を受賞。





に没頭したものです。

高校時代から周りの人たちと一緒にものづくりをしてきた私にとって、デザイナーやコピーライターなど、さまざまなプロフェッショナルが一体となって制作に向かう電通での仕事は楽しいことばかりです。そんな中で声をかけていただいた仕事がNHKの「ねほりんぱほりん」でした。顔出しできないゲストを招き、本音をねほりはほり聞き出すトークバラエティなのですが、ゲストの顔にモザイクをかける代わりに、MCもゲストも全員人形に置き換えるモザイクの新しいデザインができました。これが今までにない人形劇を模

したトーク番組として話題になりました。また最近では「3cm market」というブランドのコンセプト開発と、アートレクシオンを手がけました。これは社会問題になっていった宅配便の再配達問題と過剰包装によるゴミ問題を減らす、ヤフー株式会社との共同プロジェクトです。荷物の幅が3センチ以内であれば受取人が不在でもポストに投入でき、再配達の手間を省けることから、3センチに収まる食品や雑貨を開発しました。これも「人のためにデザインを」を念頭に置いてきた私の思いが形になった仕事のひとつです。幸いなことに、このプロジェクトのおかげで

2019年度のADC賞を受賞。ゼミでお世話になった林規章先生にもご報告しました。当時から憧れだった先生と、卒業後もこんな風に連絡を取り合えるのは本当に嬉しい。今でも先生からの教え「世の中を知らないと優れたデザインはできない」を心に留めています。これはクライアントの課題をそのまま解決するのではなく、身近な社会課題を交えながら解決したほうが世間は興味を抱いてくれる、という教え。プロのデザイナーとなった今こそこれら教えが役に立っています。

近年はアートディレクターが携われる領域が増えています。グラフィックはもちろん、映像、空間、アプリやプロダクトなど、目にする多くのものに広がっています。これは嬉しい潮流で、私自身は何にでも挑戦したい。そう言いながら、今、改めて真剣に向き合いたいのはグラフィック表現です。どちらかという企画やアイデアのユニークさで評価されることの多かったものの、グラフィック表現の腕をあらためて磨くことで、次なる成長を果たしたい。私のデザイナーとしてのキャリアはまだ始まったばかりです。これからも自分らしい表現を模索しながら、人のため、社会のためにデザインで貢献していければと思っています。



3cm market / 3cm market 製作委員会
再配達問題とゴミ問題を解決するために、郵便受けのサイズである、厚さ3cmに収まるパッケージを開発した。(ADC賞受賞)



ねほりんぱほりん / 日本放送協会
Eテレで2015年から現在シーズン4まで放送されている人形劇を用いた赤裸トークショー番組。(ギャラクシー賞・グッドデザイン賞・ACC賞受賞)

新任教員からみなさんへ



保高 一仁
芸術学部 アート・デザイン表現学科
ヒーリング表現領域
特任准教授

1981年長野県生まれ。多摩美術大学大学院美術研究科絵画専攻修了。松本短期大学幼児保育学科助教を経て現職。アートとアートセラピーのつながりを研究し、幼児から高齢者まで幅広い世代へのアートアプローチを実践している。

自分が変わっていくという予感がありますか。それは楽しいものですか。それとも、少し怖いですか。実際のところ数年後には、今、立っているその場所からは見ることのできない場所に、皆さんはたどり着いているでしょう。アート・デザインは、それぞれ無関係のように見える領域の間に広がる空白を満たし、それらをつなぎとめていく性質があります。そして、自分自身を見知らぬ領域へ連れ出していってくれます。導かれるところへ導かれることも、良いと思います。



帆足 枝里子
芸術学部 美術学科
立体アート専攻
特任助教

1988年東京都生まれ。女子美術大学大学院美術研究科博士後期課程立体芸術研究分野修了。ART MEETS ARCHITECTURE COMPETITIONにて最優秀賞を受賞。個展やグループ展、建築空間・公共施設への作品設置等で活動。

彫刻に限らず、作品を制作するという事はとても時間のかかることだと思います。日々、思考を積み重ね、自分自身と向き合い、手を動かし続けなければならぬので、時に辛く苦しいものかもしれませんが、その中には、何ものにも代え難い喜びや発見があります。制作や自分自身に向き合う時間を充分にもつことのできる大学生の時期は、これからの人生の中で本当に貴重なものとなるはずで。様々な事に挑戦し、多様な表現を学び、将来に繋がるような有意義な時間を過ごして欲しいと思います。



西田 秀己
芸術学部 アート・デザイン表現学科
ヒーリング表現領域
特任助教

ベルゲン芸術大学修士課程修了。環境インスタレーション作家として活動する。光州ビエンナーレ(2014年、韓国光州)他多数で作品を発表するほか、デルフィーナ財団(ロンドン)等のレジデンスに参加。2019年までポーラ美術振興財団在外研修員としてモスクワに滞在する。 Web: <http://hdmnsd.com/>

目の前に広がる世界をどのように知覚し経験するかはその人の気分のありようによって様々に変化します。日々を気分良く生きる。すると、それまで気がつかなかった世界の美しき細部に、様々目をとめることができるでしょう。そういうささやかな感動を表現し、シェアすることも芸術やデザインが持つ役割のひとつだと思います。広い世界を気分良く歩く。そういうスキルと一緒に磨いて行きたいと思っています。

退職された先生方

芸術学部	共通専門	特任教授	関 直子
芸術学部	美術学科	教授	藤倉久美子
芸術学部	アート・デザイン表現学科	講師	横山純子
	立体アート専攻		
	ヒーリング表現領域		

新入生に向けて



学校法人女子美術大学
理事長 福下 雄二

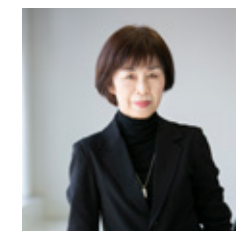
本学は、1900年に、芸術による自立した女性の育成を建学の精神として、横井玉子、佐藤志津という二人の女性により創立されました。

今年2020年に創立120周年を迎える、私立の美術大学としては最も古い歴史と伝統を誇る大学であります。

今日に至るまで、芸術の分野だけでなく社会のあらゆる分野で活躍する数多くの卒業生を輩出しております。

これからの女子美術大学の歴史と伝統を創っていただくのは皆様であり、皆様の力によって女子美術大学の歴史と伝統を更に輝かしいものに築き上げていただいくことを期待しております。

これからの学生生活で、人と人との出会いやご縁を大切に、良き友人に恵まれ、良き先生に巡り会い、良き書物に出会えるよう努力していただき、豊かで充実した学生生活を送って下さい。



女子美術大学
女子美術大学短期大学部
学長 小倉 文子

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。

1900年に創立した女子美術は、女性の自立を建学の精神として今年で120年を迎えます。

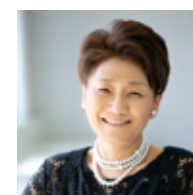
賢母良妻の考えが主流だった当時の女子教育の中にあつて革新的な学校の登場でした。この精神は現在まで受け継がれ、多くのアーティストやデザイナーを輩出してきました。また、起業する卒業生も多く、職種も多岐にわたります。考える力、生きる力を身に付け活躍の場を広げた結果といえます。

大学生活では学科専攻領域を越えて自由に参加できる産官学と連携して行う商品開発プロジェクトや異分野と協同で行うプロジェクトが多数あります。また、海外で行うインターンシップや留学制度なども充実しています。行動することだけでなくのモノと出会い、たくさんの人とつながります。

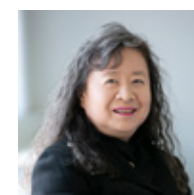
正課授業で習得する知識や技術に加え、正課外のプロジェクトに参加することで出会うモノやコトを最大限活用し、社会とつながり、学科を越えた仲間たちと体験を通して成果を上げられることを期待しています。



短期大学部部長
後藤 浩介



芸術学部長
松本 博子



大学院美術研究科長
内山 博子



副学長
山野 雅之

WAKANA KOIKE NEWYORK

WAKANA KOIKE NEWYORK

Q 5

制作・仕事をする上で大切にしている考え方を教えてください。

今は、ユニクロのニューヨークにあるグローバルイノベーションセンターという新しいデザインを開発するオフィスでテキスタイルデザイナーのマネージャーとして働いています。世界のマーケットの動向を見極めながら新しいテキスタイルデザインを提供しています。さまざまな国のデザイナーとのコラボレーションも多く、刺激的な現場です。日本のユニクロ本社のスタッフと海外のデザイナーとを繋げる仕事なので、常識に捕われずに、広い視野でコミュニケーションを取り、クリエイションしていく事を大切にしています。

Q 6

大学時代にやっておくべきことについて、アドバイスをお願いします。

美大にいる時間ほど、「自分と向き合う機会」はないと思います。大学時代の貴重な時期にたくさんの先生や仲間と話し合い、切磋琢磨しながら、自分に向き合うことも大切にしてください。

Q 7

海外で制作・仕事をする事の“楽しさ”を教えてください。

ニューヨークはアメリカ人だけでなく世界中の人が集まっています。高い意識の方が多く、プライベートも充実しながらバランス良く働いている人が多いので、生き方として参考になる人が多いです。海外で仕事する事は、責任を持って自由に生きる楽しさがあります。また、世界中のたくさんの方たちに自分が関わったデザインや、プリントの服を着てもらえることほど嬉しいことはありません。

Q 8

やりたいことや夢を実現するためのヒントを教えてください。

ニューヨークで夢を実現している人たちを見ると、無理だと思わず、無心で飛び込んで、そこからあきらめずに努力することが大切だと感じました。小さなチャンスも逃さず、可能性を信じ、自らの夢を掴みにいってください。

Q 9

後輩(女子美生)に一言メッセージをお願いします。


女子美の同窓会支部がニューヨークにもあり、パワフルな女子美出身の女性がたくさん活躍されています。みなさんもチャレンジ精神を持ち、楽しくワクワクすることを見つけてください。



MEW New York Fashion Exhibition in New York 2011
Photo: Misaki Matsui



ユニクロ米国: SOHOニューヨーク店(グローバル旗艦店) 2019



小池和香奈(こいけ わかな)
 テキスタイルデザイナー歴
 2000年女子美術大学芸術学部工芸科織コース卒業
 2000年-2005年 Tsumori Chisato テキスタイルデザイナー ニューヨークに渡米
 2006年-2008年 Milkprint LLC, テキスタイルデザイナー
 2009年-2017年 Gap Inc. シニアプリントスタイリスト
 20017年- UNIQLO Global Innovation Center テキスタイルデザインマネージャー
 ファッションデザイナー/テキスタイルデザイナー歴
 2008年-2017年 MEW International INC.MEW New Yorkディレクター
 受賞歴
 2008 My it things Fashion contest winner
 コラボレーション歴
 2007 Collaborated with United Bamboo Created textile design for
 2009 SS and AW New York collection
 2009 Textile Collaboration with Anthropologie for 2009 AW and 2010 SS
 2009 Textile Collaboration (T-shirts and Scarves) with UNIQLO for 2010 SS

小池和香奈



MEW New York Fashion Exhibition in New York 2011
Photo: Teppei Maruoka



MEW New York "Identities"
Charity fashion show at Harvard University 2011

Q 1

なぜ海外で活動・仕事することを選んだのですか?

昔から海外に憧れがありました。女子美を卒業後にテキスタイルデザイナーとしてTsumori Chisatoで働いた際に、アメリカ人スタイリストのジョンさんと仕事をする機会が増えて、もっと英語が喋れるようになりたい、海外に住んでみたいという気持ちが強くなりました。ジョンさんに商業的な洋服をやりたいならニューヨークが合うんじゃないかとアドバイスされたのがきっかけです。ニューヨークに住むジョンさんのファッション感覚は日本人と大きく違い、違う考えで洋服を見る人たちのところで学びたいと思いました。また、テキスタイルだけでなく、それをどう洋服にしていくかを次のステップにしようと考えて海外で仕事することを選びました。

Q 2

女子美時代は、どんな学生でしたか?

女子美で出会った友達いつも楽しく勉強しながらもいっぱい遊んでいた覚えがあります。女子美で出会った親友は今でもとても仲がよくて大事な仲間です。

Q 3

女子美時代の印象深い思い出を教えてください。

一番覚えているのは卒業制作です。堅い葉みたいな素材を足立区のシルク工場で見つけて、それで緋を作ってみようと思いました。面白い素材を使おうという意識があり、捨ててしまふような部分だったため安く、大量に購入することができ、「先生、これでやります」と宣言しました。私は、織物をただ見せるというのではなく、その素材と生地を使ってどういう立体物にするかということがしたかったのです。今私が仕事でやっているのとは全然違って、どちらかというとアートのな作品でした。工芸科の渡邊三奈子先生と話していく過程が何よりも大事な時期だったと思います。先生は本当にアーティストとして、海外生活も長く、自由な発想をお持ちで、とても良い経験でした。

Q 4

美大の中でも、女子美を選んだのはなぜですか?

高校の時にイッセイミヤケのコレクションを見て、イッセイミヤケの素材開発に感動しました。素材が違えば作り方も変わるから、自ずと違う形が出来上がるのではないかと思います。テキスタイルを学ぼうと考えました。そして美大の予備校に相談に行き、女子美の工芸科に織コースがある事を知り受験しました。



03 | 芸術文化専攻のイギリス研修

本学と学術交流協定を結んでいるイギリスのラフバラ大学において、春休みの約1ヶ月間「海外芸術研修II B」の授業として、芸術学部美術学科芸術文化専攻2年生がイギリス研修に参加しました。毎年この研修では、海外協定校であるラフバラ大学に滞在し、英語とアートの特別クラスを受講しながら、現地の教員や学生たちと展示会を共同開催しています。今年は「Fragility」をテーマに、相模原キャンパスの学生から募集したポストカード作品をラフバラ大学の学生と一緒に展示。また、ロンドンのミュージアムツアーやケンブリッジ大学の見学も行い、学生にとって充実した1ヶ月となりました。

※芸術文化専攻の海外芸術研修(1年次:アジア / 2年次:欧米)の旅費は学費に含まれています



01 | 創立120周年シンボル ニケマーク制定

女子美術大学は明治33(1900)年に創立され、今年で120周年を迎えます。多くの方々に周知するにあたり、シンボルとなるニケマークを新たに制定しました。創立100周年に制定されたニケマークの胴体や羽のバランス等デザインの改善を行い、軽やかな印象にリニューアル。100周年に制定されたマークを尊重しつつ、120周年を迎え、さらなる未来に向けて女子美が大きく羽ばたいていくイメージを強調したデザインになりました。

NEWS — & — TOPICS



04 | 「外国人留学生就職活動内定者報告会・懇親会」を開催

「外国人留学生就職活動内定者報告会・懇親会」を両キャンパスで開催しました。近年、卒業後も日本で働きたいと思っている留学生が増え、キャリア支援センターでは留学生に対してもエントリーシートや履歴書の書き方などの就活サポートを強化しています。今回は日本の企業に内定した韓国・タイ・台湾・中国出身の学生が参加。自身の就職活動につ

いて、実際に企業の面接で行われた質問や回答、内定獲得までのエピソードをスライドやポートフォリオを交えて紹介しました。キャラクター、アクセサリ、WEB、広告などさまざまな業界や企業の「留学生の就職事情」について熱心にメモをとる姿が見られ、これからの就職活動を目指す留学生にとっては良いヒントを得る機会となりました。



02 | 海外スプリング・スクール開催

学術交流協定校であるアメリカ・ニューヨークのスクール・オブ・ヴィジュアル・アーツ (SVA) において2月7日～3月3日に海外スプリング・スクールを開催。芸術学部生14名、短期大学部生6名の計20名が参加しました。午前中の3時間は語学研修が実施され、日常英会話だけでなく、プレゼンテーションやパフォーマンスを取り入れた全身表現なども学びました。午後はフィギュアドローイング、リトグラフ、イラストレーション、3Dアートといった異なる4分野をSVAならではのアプローチ方法で学びました。課外アクティビティでは美術館を訪れたり、映画やブロードウェイミュージカルを鑑賞したりと、アメリカのカルチャーに触れた刺激的な1ヶ月間となりました。





07 | リー・クラッチさんによる 「とばいろ〜海と地の記憶〜」展開催

2018年に交換留学生として本学芸術学部日本画専攻で学んでいたリー・クラッチさんが三重県鳥羽市にあるアートスペース「ARToba(アートば)」で「とばいろ〜海と地の記憶〜」展を開催。2017年に本学の学術交流協定校、ドイツのフリードリヒ・アレクサンダー大学エアランゲン=ニュルンベルクのSkype(スカイプ)での共同授業をきっかけに、

日本画に興味をもち、天然岩絵の具の勉強を始めたというクラッチさん。今回、鳥羽の石や貝殻で作った天然顔料を使用して制作した日本画を展示しました。また、初日には本学名誉教授の橋本弘安先生によるワークショップも開催され、実際に鳥羽市の石や貝を使って絵の具を作る実技体験が行われました。 ○キュレーション:リンダ・デニス ○写真:奥谷年雄



09 | エコプロ2019に出展

国内最大級のイベント『エコプロ2019』に今年も芸術学部デザイン・工芸学科プロダクトデザイン専攻が参加しました。女子美は「エコデザイン」の課題授業で取り組んだ「障がい者の自立をデザインで支援」に関する成果を紹介。また、廃材を女性視点で魅力的なモノに変える「アップサイクルデザイン」に取り組み、価値ある素敵なアイテムとして生まれ変わらせるプロジェクトを発表しました。今回は「持続可能な社会の実現に向けて」をテーマに、「SDGs・17のゴール」(世界を変えるための17の目標)を数多く含んだ新しい提案がされ、多くの方が足を止めていました。

○4年生「エコデザイン」授業・産学連携
株式会社ぶんご(B-COMPANY)、社会福祉法人埼玉福祉事業協会
○プロダクトデザイン専攻有志学生プロジェクト「廃材プロジェクト」共創企業
廃材提供:小田急百貨店町田店、相田化学工業株式会社ほか
●プロジェクトマネジメント
芸術学部デザイン・工芸学科プロダクトデザイン専攻 主任教授 松本博子



08 | アサヒ飲料株式会社の『PLANT TIME』 「ソイミルクティー」と「ソイラテ」の ボトルデザインを協同制作

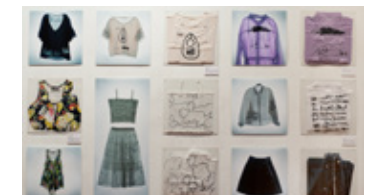
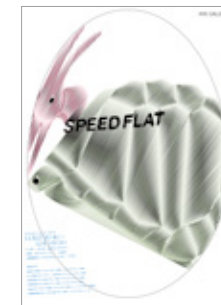
アサヒ飲料株式会社の植物ミルクを使用した新ブランド『PLANT TIME』の「ソイミルクティー」と「ソイラテ」のボトルデザインを、本学芸術学部デザイン・工芸学科プロダクトデザイン専攻の学生が協同制作しました。学生によるプロジェクトチームが、ユーザーターゲットに近い女性の視点にこだわり、商品のボトルやラベル等のデザインをトータルで提案。商品コンセプトから想起されたテーマをもとにデザインしました。



05 | 女子美 × パナソニック 天王洲アイルで動画作品を上映

本学芸術学部アート・デザイン表現学科メディア表現領域とヒーリング表現領域の授業科目「プロジェクト&コラボレーション演習」で、本学学生とパナソニック株式会社のプロジェクト授業が行われ、12月に東京のウォーターフロントで有名な天王洲アイルの「天王洲チャンネルフェス2019冬」にてお披露目となりました。3年生5名による作品は、運河沿いのパナソニック映像壁面を巨大スクリーンに見立て「超大型映像

プロジェクションマッピング」作品として投影。2年生7名の作品は、運河沿いのデッキに並ぶパラソルの内側に7色のテーマカラーが虹のような色合いに感じられる「パラソルマッピング」として投影されました。学生たちの多彩な才能が凝縮した映像作品は、フェスティバルに参加された多くの方々に鑑賞いただき、楽しさや癒し、驚きを提供する試みとなりました。



06 | 未来のものづくりのあり方を考えるプロジェクト 「SPEED FLAT 2019」開催

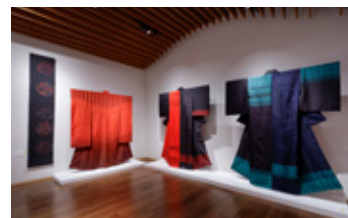
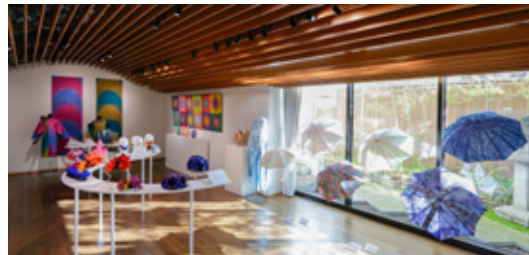
11月28日〜12月1日の4日間、六本木のAXIS GALLERYで「SPEED FLAT 2019」が開催され、本学からはデザイン・工芸学科ヴィジュアルデザイン専攻3年生18名が参加しました。本展はデザインプロセスやテーマにもとづいたインスピレーションから、デザインの未来を展望するプロジェクトとして産学で研究する取り組みです。本学では「動くツール、動く

デザイン」をテーマに、スマートフォンを使った表現に挑戦。着られなくなった古着にシルクスクリンプリントをほどこした作品を制作しました。また、本展のメインビジュアルは本学教授である澁谷克彦先生が手掛けられました。(指導教員:粟辻美早教授、澁谷克彦教授、林規章教授、松山智一教授)

【参加団体】計6団体

- 首都大学東京 システムデザイン学部 インダストリアルアート学科
- 女子美術大学 デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻
- 多摩美術大学 生産デザイン学科 テキスタイルデザイン専攻

- 多摩美術大学 生産デザイン学科 プロダクトデザイン専攻
- 法政大学 デザイン工学部 システムデザイン学科 ヒューマンデザイン研究室
- 武蔵野美術大学 工芸工業デザイン学科 インテリアデザインコース



12 | 工芸専攻 テキスタイルコースによる 「女子美・工芸・手しごと展 in Kyoto」開催

本学デザイン・工芸学科工芸専攻テキスタイルコースによる学生作品展「女子美・工芸・手しごと展 in Kyoto」が、京都市の香老舗松栄堂薫習館で開催されました。作品は2期にわけて展示し、染、織、刺繍によるユニークな表現と創作活動を紹介します。前期では和装を中心に、後期では産官学共同作品を中心に展示されました。また、染、織、刺繍の各

コースによるワークショップも実施され、多くの方に参加いただきました。2月29日には本学特別招聘教授である館鼻則孝先生の講演会が開かれ、京都の染織関係の方々に参加し、大盛況のうち終了しました。本展は京都新聞や産経新聞にも掲載もされ、学生にとって今後の励みとなる有意義な機会となりました。



13 | 「第43回 東京五美術大学 連合卒業・修了制作展」 シンポジウム『外から見た五美大展』

2月20日から国立新美術館で開催された「令和元年度 第43回 東京五美術大学 連合卒業・修了制作展」通称「五美大展」の会期に合わせ、シンポジウムがありました。『外から見た五美大展』というタイトルとおり、五美大出身ではない美術関係者5名を招き、美術界最先端の注目パネリストとして美術大学の卒業・修了制作展について、自由に語っていただきました。登壇者として東京都現代美術館学芸員の藪前知子氏、インディペンデントキュレーターの長谷川新氏、東京ステーションギャラリー学芸員の成相肇氏、アートトランスレーターの田村かのこ氏、美術批評家の

黒瀬陽平氏、そして本学美術学科芸術文化専攻教授の杉田敦先生がモデレーターとして司会を務めました。五美大展は43回の歴史を重ね、首都圏五美術大学の洋画、日本画、版画、彫刻の卒制作品を一堂に会して見ることが出来る展覧会として認知されています。一方で、作品数の多さ、展示・表現方法のあり方、国立新美術館という公共の場所で展示する意味など「誰のため、何のため」を問われる厳しい意見もありました。「内」と「外」の見方であらためて温度差を感じ、学生も含め、五美大関係者にとっては、原点に立たされる意義のあるシンポジウムとなりました。

10 |

女子美術大学 × 国立台湾芸術大学 長野県高山村と 新北市烏來区の地域づくり



本学と国立台湾芸術大学が共同で実施している長野県高山村と新北市烏來区(台湾)のデザインとアートによる地域づくりの成果報告会が、1月28日に長野県高山村にて開催されました。報告会では、両学長が出席する中、両大学の参加学生4名ずつが、プロジェクトテーマである高山村の「手ぬぐい」、烏來区の「お土産用紙袋」のデザインを発表。今回で3年目を迎える本プロジェクトの様子は、ドキュメンタリー番組として4K映像で制作され、台湾の地上波民放局とケーブル4Kチャンネルで30分番組として全国放送されました。



「rooms40」：国立代々木競技場 第一体育館

11 | 女子美 × 西ノ内紙 「rooms40」に出展

全国から2万人以上の来場者数を誇る日本最大級のクリエイティブの祭典「rooms40」が、2月20日～22日までの3日間、国立代々木競技場第一体育館で開催。短期大学部造形学科デザインコース・テキスタイル研究室では「女子美×西ノ内紙」と銘打ち、伝統ある茨城県無形文化財「西ノ内紙」とのコラボレーションによるファッショナブルなテキスタイル製品を発表しました。力強くないやかな和紙に、絞り染めの柔らかなシルクオーガンジーを合わせた今までにない質感による布。全て手作業によるその布はそれぞれの素材が放つ美しい個性を響かせ伝統と今を繋ぎます。



「100周年記念大村文子基金」は、本学創立100周年を記念し、前理事長(現名誉理事長)大村智博士夫妻による寄付を基に、在学生・卒業生の美術活動の奨励を主な目的として設立されました。新しい美の創造者、探求者の育成を支援する女子美の文化事業として、また日本文化、芸術の創造と発展の一翼を担う、文化貢献の一つとして運営しています。

100周年記念大村文子基金

2019年度(第21回)
大村特別賞 [副賞 記念品]

賀来千香子
付属中学校・高等学校を経て、短期大学卒業
芸能活動の中で、機会を捉え、「女子美」出身であることを発信し、本学の知名度向上に繋がっている。

根田穂美子
芸術学部 芸術学科 造形専攻 卒業
国内、フランス(サロンドートヌ展入選)、イタリア、スペイン、アメリカで発表する等洋画作家としての活動を行う。また、秋田県大館市での制作活動に加え、民事調停委員等を歴任したことにより、藍綬褒章を受勲。

西川敏子
芸術学部 図案科 卒業
木製玩具のデザイン等を学び、ヨーロッパの天然素材玩具輸入会社「NIKITIKI」を設立、子供の知育玩具の普及の活動を続けている。

小井土 凜
女子美術大学付属高等学校 2年在籍
第43回全国高等学校総合文化祭に東京都代表として出場、第46回全国高等学校総合文化祭東京大会「大会テーマ毛筆表現」にて、最優秀賞を受賞、大会の看板や印刷媒体利用に採用。

南部梨央生
女子美術大学付属高等学校 3年在籍
第2回 シュースデザインコンテスト優秀賞を受賞。

2019年度(第7回)
女子美栄誉賞
[副賞 記念品]

福島瑞穂
1959年 女子美術大学 芸術学部 美術学科 洋画科 卒業
本学卒業後、女流画家協会賞や独立展奨励賞を授賞され、海外において深く研鑽を積まれ、帰国後も安井賞で佳作賞をはじめ数々の受賞を重ね、美術界において確固たる地位と評価を受けられる。教育者として10数年にわたる後進の指導と育成、作家として60年を超える活躍と現役を続ける

2020年度(第21回)
女子美パリ賞
[副賞 100万円]
[パリ国際芸術都市アトリエにて1年間滞在制作]

國吉晶子
2001年3月芸術学部 絵画科 洋画専攻 卒業



『2 SPEAKERS』
2019年/綿布・油彩

2019年度 特別賞

順天堂
佐藤志津・小川秀興賞

学校法人順天堂と本学は連携・協力に関する協定を締結しており、その一環として2016年度より優秀な卒業制作に対して「佐藤志津・小川秀興賞」を授与いただきました。本年度は以下の学生が受賞し、賞状と副賞が贈られました。選出された作品は順天堂大学院等に1年間展示されます。



『楽園』 藤原絵美
芸術学部美術学科日本画専攻

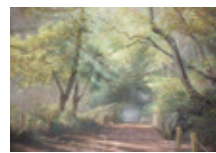


『冬語り』 王 森
芸術学部美術学科日本画専攻

東京理科大学賞

学校法人東京理科大学と本学は連携・協力に関する協定を締結しており、その一環として2015年度より優秀な卒業制作に対して「東京理科大学賞」を授与いただきました。本年度は以下の学生が受賞し、賞状と副賞が贈られました。選出された作品は東京理科大学内に1年間展示されます。

東京理科大学
学長賞



『風の吹くま 気の向くま』
陶山紗希
芸術学部美術学科日本画専攻

東京理科大学
坊っちゃん賞



『観点』『観点』 有住薫奈
芸術学部美術学科洋画専攻(絵画)

東京理科大学
マドンナ賞



『終わりのない対話』 小泉百合子
芸術学部美術学科洋画専攻(版画)

2020年度(第14回)
女子美ミラノ賞
[副賞 70万円]
[ブレラ国立美術学院にて6ヶ月間研究・留学]

青柳 緑
1998年3月 短期大学 造形科 絵画専攻 卒業
1999年3月 短期大学 専攻科 造形専攻 絵画 修了
2019年3月 短期大学部 美術コース専任助手 任期満了



『お家に帰ろう』
2019年/油彩・キャンバス

女子美 ベルリン賞

2020年度(第3回)
[副賞 50万円]
[ベルリン クンストラムム・クロイツベルク/
ペタニエンのアトリエにて3ヶ月間滞在制作]



『ペーパー・シャツ・ショーウ』
2006年/紙、ライト
(カッタースポットライト、LEDライト)

加賀田 恭子
1993年3月 短期大学 造形科 グラフィックデザイン教室 卒業
1994年3月 短期大学 専攻科 造形専攻 宣伝計画 修了

2019年度(第19回)
女子美制作・研究奨励賞
[副賞 各20万円]

半澤友美
2010年3月 芸術学部 立体アート学科 卒業
2014年4月 芸術学部 立体アート研究室 非常勤講師
2019年3月 芸術学部 立体アート研究室 非常勤助手 任期満了



『The Histories of the Self』
2019年/木材/パルズ、染料、柿渋、アマニ油/オリジナルテクニック

中村 菜都子
1995年3月 短期大学 造形科 生活デザイン専攻 卒業



『Memoir of the island (島の記憶)』
2019年/水性インク・ネパール紙・刺繍糸/木版画、刺繍/
1200×7200mm(撮影:木奥恵三)

2019年度(第18回)
大学院・大学・短期大学部

女子美美術奨励賞
[副賞 各10万円]

オウ シュクン
王 淑君 (中国)
大学院 美術研究科 デザイン専攻
博士前期課程 メディア研究領域 2年在籍



『本期×メールボックス』
2018年/冷蔵庫・紙媒体/写真

ユン ジフ
尹 祉寓 (韓国)
芸術学部 デザイン・工芸学科
環境デザイン専攻 4年在籍



『めぐる保育園』
2019年/スチレンボード・紙/模型

ガン ケイ
顔 慧 (中国)
短期大学部 造形学科
美術コース 2年在籍



『花海』
2019年/水彩・紙

女子美術大学 芸術学部 アート・デザイン表現学科 ファッションテキスタイル表現領域 卒業制作学外展「Continue」
2月28日～3月1日の期間、レンタルスペースさくら恵比寿南で展示を行いました。



女子美術大学 芸術学部 アート・デザイン表現学科 アートプロデュース表現領域 Re:AP -JOSHIBI AP Graduate Show 2019-
1月17日～1月28日の期間、女子美ガレリアニケで展示を行いました。



女子美術大学短期大学部 デザインコース(2年生・専攻科・研究生) テキスタイルデザイン卒業制作学外展 -染・織・ファイバーワークス-
2月13日～2月16日の期間、AXIS GALLERYで展示を行いました。



2019年度 学外卒業・修了制作展

3月に開催を予定していた芸術学部・短期大学部の2019年度卒業・修了制作展は、残念ながら杉並と相模原の両キャンパスで開催が中止となりました。そのため、1月～2月の間に行われた一部の学外展の様子をご紹介します。各学科・専攻・領域ごとに行われた学外展には、学生生活の集大成である卒業制作を見るために、在学生や保護者の方など多くの方が会場を訪れました。

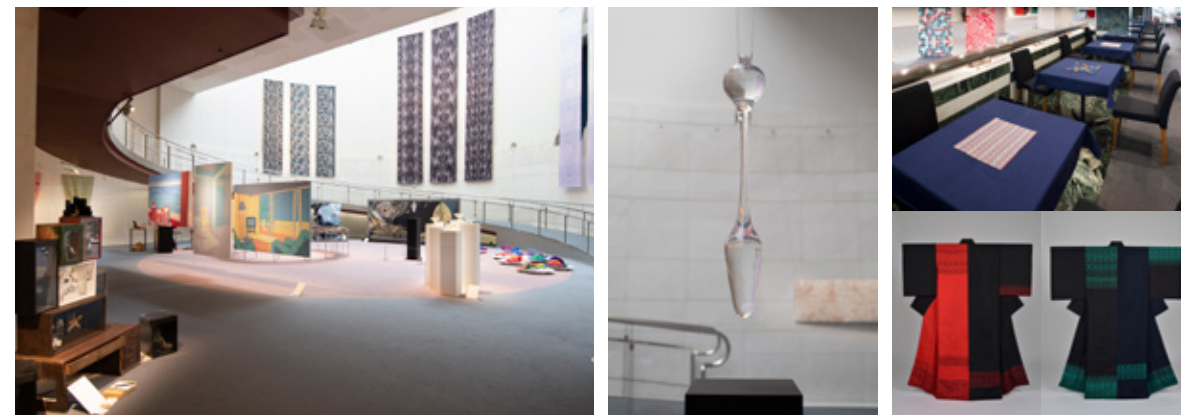
女子美術大学 芸術学部 デザイン・工芸学科 プロダクトデザイン専攻 卒業制作展2020「Knock-Knock」

2月21日～2月23日の期間、東京デザインセンターで展示を行いました。



女子美術大学 芸術学部 デザイン・工芸学科 工芸専攻 卒業・修了制作展2020「ko-gei junction わたしたちの創造が交差する」

2月7日～2月11日の期間、Spiral Gardenで展示を行いました。



2019年度 卒業制作賞・優秀作品賞 等 受賞者

令和元年度・第43回 東京五美術大学 連合卒業・修了制作展 開催

2月20日～2月28日の9日間に渡り、東京五美術大学（東京造形大学、日本大学芸術学部、武蔵野美術大学、多摩美術大学、女子美術大学）の美術系学科による卒業・修了制作展「東京五美術大学 連合卒業・修了制作展」が国立新美術館にて開催。学生たちの集大成である個性とエネルギーに満ち溢れる作品の数々が会場を埋め尽くし、鑑賞する来場者には感想を話し合う姿が多く見られました。期間中にはシンポジウムも開催され、五美術大学の作品が一同に集まる展示に注目度も高く、多くの方が会場を訪れました。



女子美術大学美術館奨励賞

美術研究科博士前期課程
 查 雯婷 美術専攻洋画研究領域
 三浦茉莉子 美術専攻日本画研究領域
 加藤みゆき 美術専攻版画研究領域
 玉田真理 美術専攻立体芸術研究領域
 汪 俐廷 デザイン専攻メディア研究領域
 李 元迪 デザイン専攻ヴィジュアルデザイン研究領域
 チョウ ゲイイ デザイン専攻プロダクトデザイン研究領域
 楊 怡雯 デザイン専攻環境デザイン研究領域
 神田美寿々 芸術文化専攻美術史研究領域

芸術学部

石井杏奈 美術学科洋画専攻
 篠原理沙 美術学科日本画専攻
 金子 和 デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻
 守下彩恵 デザイン・工芸学科 プロダクトデザイン専攻
 牛山明日香 デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻
 伊東由華 デザイン・工芸学科 工芸専攻
 田中紗弥佳 アート・デザイン表現学科メディア表現領域
 蟻川夢子 アート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域
 境 真由子 アート・デザイン表現学科ファッションテキスタイル表現領域
 中村仁美 アート・デザイン表現学科アートプロデュース表現領域
 山口日菜子

短期大学部

顔 慧 造形学科美術コース
 加藤玲奈 造形学科デザインコース

短期大学部

顔 慧 造形学科美術コース
 今井鈴華 造形学科デザインコース
 内田梨湖 造形学科デザインコース
 福田花純 造形学科デザインコース
 横井恭子 専攻科造形専攻美術コース
 尾崎里樺 専攻科造形専攻デザインコース

優秀研究賞

芸術学部
 神野千夏 美術学科美術教育専攻
 遠藤 優 美術学科芸術文化専攻
 水谷初音 アート・デザイン表現学科アートプロデュース表現領域

福沢一郎賞

美術研究科博士前期課程
 查 雯婷 美術専攻洋画研究領域
 加藤みゆき 美術専攻版画研究領域

大久保婦久子賞

美術研究科博士前期課程
 角川真穂子 美術専攻洋画研究領域
 シュ チエン 美術専攻日本画研究領域
 菱ヶ江 真里 美術専攻版画研究領域
 増田麻由 美術専攻立体芸術研究領域
 高 揚 デザイン専攻メディア研究領域
 佐藤可奈 デザイン専攻ヒーリング研究領域
 砂川咲里 デザイン専攻ヴィジュアルデザイン研究領域
 汪 子歆 デザイン専攻環境デザイン研究領域
 古川小百合 芸術文化専攻美術史研究領域

優秀作品賞

芸術学部
 金子玲奈 美術学科洋画専攻
 猿谷知華 美術学科洋画専攻
 徳江益美 美術学科日本画専攻
 松下千夏 美術学科洋画専攻
 村野乃奈 美術学科洋画専攻
 橋本怜美 美術学科日本画専攻
 児島優子 美術学科日本画専攻
 山川裕花理 美術学科日本画専攻
 金澤夏帆 美術学科立体アート専攻
 倉屋日菜子 デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻
 佐川梢恵 デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻
 鈴木瑛未 デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻
 藤巻玲奈 デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻
 峯宇晶子 デザイン・工芸学科 プロダクトデザイン専攻
 安藤万優佳 デザイン・工芸学科 プロダクトデザイン専攻
 指田彩加 デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻
 小林莉子 デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻
 伊 祉寛 デザイン・工芸学科 工芸専攻
 岩谷美海 デザイン・工芸学科 工芸専攻
 小林芽久 デザイン・工芸学科 工芸専攻
 平岡利奈子 デザイン・工芸学科 工芸専攻
 新井めぐみ アート・デザイン表現学科メディア表現領域
 占部早紀 アート・デザイン表現学科メディア表現領域
 木村菜月 アート・デザイン表現学科メディア表現領域
 澤瀬 環 アート・デザイン表現学科メディア表現領域
 村澤瑞美 アート・デザイン表現学科メディア表現領域
 脇本志穂 アート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域
 小林 遥 アート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域
 境 真由子 アート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域
 三浦愛歩 アート・デザイン表現学科ファッションテキスタイル表現領域
 大森絢未

ノーベル賞受賞記念大村智賞

美術研究科博士後期課程
 長尾真紀子 美術専攻芸術文化研究領域

加藤成之記念賞

美術研究科博士前期課程
 加藤みゆき 美術専攻 版画研究領域

芸術学部

石井杏奈 美術学科洋画専攻
 林 あいり 美術学科日本画専攻
 黒飛友理奈 美術学科立体アート専攻
 横原れいか 美術学科美術教育専攻
 遠藤 優 美術学科芸術文化専攻
 下川舞優 デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻
 劉 若溪 デザイン・工芸学科 プロダクトデザイン専攻
 野崎杏奈 デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻
 萩原 睦 デザイン・工芸学科 工芸専攻
 蟻川夢子 アート・デザイン表現学科メディア表現領域
 安本真理子 アート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域
 大森絢未 アート・デザイン表現学科ファッションテキスタイル表現領域
 山口日菜子 アート・デザイン表現学科アートプロデュース表現領域

短期大学部

宮下未来美 造形学科デザインコース
 尾崎里樺 専攻科造形専攻美術コース

卒業制作賞

芸術学部
 太田優紀 美術学科洋画専攻
 川窪花野 美術学科洋画専攻
 中川芹菜 美術学科日本画専攻
 増井 萌 美術学科立体アート専攻
 紅林万由 デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻
 関 明日華 デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻
 土本穂香 デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻
 最上さやか デザイン・工芸学科 プロダクトデザイン専攻
 野崎杏奈 デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻
 梶原 花 デザイン・工芸学科 工芸専攻
 田中京香 アート・デザイン表現学科メディア表現領域
 藤澤美咲 アート・デザイン表現学科メディア表現領域
 南 美歌 アート・デザイン表現学科メディア表現領域
 三谷瑠璃子 アート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域
 加藤万渚 アート・デザイン表現学科ファッションテキスタイル表現領域

短期大学部

太田ひより 造形学科美術コース
 杉田万智 造形学科美術コース
 加藤玲奈 造形学科デザインコース
 越川莉葉 造形学科デザインコース
 杉山比奈 造形学科デザインコース
 高橋菜里 造形学科デザインコース

卒業研究賞

芸術学部
 中村寿賀子 美術学科美術教育専攻
 中井美乃莉 美術学科芸術文化専攻
 森 美里 アート・デザイン表現学科アートプロデュース表現領域

JAM

2019年度 女子美術大学退職教員記念展

2020.1.8(水) - 1.28(火)

芸術学部 美術学科立体アート専攻教授の藤倉久美子先生の作品の展覧会を開催しました。

2019年度 女子美術大学大学院博士前期課程修了制作作品展

2020.3.8(日) - 3.12(木)

※開催は中止となりました。

女子美ガレリアニケ

2019年度 女子美術大学退職教員記念展

2019.11.29(金) - 12.18(水)

芸術学部 アート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域講師 横山純子先生の作品の展覧会を開催しました。

女子美術大学AP(アートプロデュース表現領域)卒業制作展

JOSHIBI AP Graduate Show 2019

2020.1.17(金) - 1.28(火)

アート・デザイン表現学科アートプロデュース表現領域4年生による卒業制作を展示しました。

2019年度 女子美術大学大学院博士前期課程修了制作作品展

2020.3.8(日) - 3.12(木)

※開催は中止となりました。

ニケキュレーターズセレクション#05 齊藤彩展

2020.4.16(木) - 5.20(水)

※開催は中止となりました。

歴史資料展示室

佐藤志津没後100年記念展 佐藤志津と私立女子美術学校

2019.3.8(金) - 7.15(月・祝)

本学初代校主・第二代校長 佐藤志津の生涯と功績を紹介しました。

2019年度 収蔵資料展 収蔵資料にみる女子美の歩み

2019.9.15(日) - 2020.2.27(木)

収蔵資料により本学の歩みを紹介する平常展を開催しました。

JAM

第42回 造形「さがみ風っ子展」

2020.10.23(金) - 10.28(水)

相模原市内小中学生の造形作品展です。

女子美染織コレクション展Part9 舞楽装束

2020.11.11(水) - 12.19(土)

日本の伝統芸能である舞楽に用いられた装束を展覧します。

2020年度 女子美術大学退職教員記念展

2021.1.8(金) - 1.27(水)

2020年度に本学を定年退職される実技系教員による展覧会です。

2020年度 女子美術大学大学院博士後期課程研究作品発表会

2021.2.15(月) - 2.20(土)

※開催は学位の申請状況により変更があります。

2020年度 女子美術大学大学院博士前期課程修了制作作品展

2021.3.9(火) - 3.14(日)

2020年度に大学院博士前期課程を修了する洋画、日本画、版画、工芸(染、刺繍、ガラス)、立体芸術、ビジュアルデザイン、プロダクトデザイン、環境デザイン研究領域の学生作品を展示します。

女子美ガレリアニケ

女子美術大学短期大学部1年前期基礎造形展

2020.7.3(金) - 7.22(水)

短期大学部1年生が自由選択授業で制作した18講座の学生作品を展示します。

国際彫刻交流展 - in 女子美ガレリアニケ -

2020.9.14(月) - 10.7(水)

本学教員とOG、国内彫刻家、イタリア、コロンビア、韓国、台湾等、約20名の彫刻作品による交流展を開催します。

第13回 五大学合同写真展 ○(まる)展

2020.10.16(金) - 10.25(日)

女子美術大学・東京工芸大学・長岡造形大学・多摩美術大学・中国伝媒大学の五つの大学でそれぞれ写真を学ぶ学生の写真展を紹介しします。

女子美術大学創立120周年記念

女子美術大学×パリ「国際芸術都市」20周年展

2020.10.31(土) - 11.21(土)

本学創立120周年を記念した展覧会。パリ国際芸術都市のアトリエ利用が20年目を迎えることを記念し、昨年は現在欧州に在住、活躍するパリ賞受賞作家の展覧会をパリ国際芸術都市ギャラリーにて開催、今年は国内で活躍するパリ賞受賞作家を中心に開催します。

2020年度 女子美術大学退職教員記念展

2020.12.2(水) - 12.21(月)

2020年度に本学を定年退職される実技系教員による展覧会です。

JOSHIBI AP Graduate Degree Show 2020

2021.1.15(金) - 1.26(火)

アート・デザイン表現学科アートプロデュース表現領域4年生・大学院生による卒業・修了制作の作品を紹介しします。

2020年度 女子美術大学大学院博士前期課程修了制作作品展

2021.3.9(火) - 3.14(日)

2020年度に大学院博士前期課程を修了するメディア、ヒーリング、ファッションテキスタイル、アートプロデュース研究領域の学生作品を展示します。

歴史資料展示室

女子美術大学創立120周年記念展覧会 言葉とともにふりかえる120年

2020.未定 - 12.25(金)

収蔵資料に加え、各時代において本学を導いた先人たちの言葉を紹介しします。
※詳細な情報は、歴史資料室WEBサイトでご確認ください。

2019年度 女子美術大学退職教員記念展

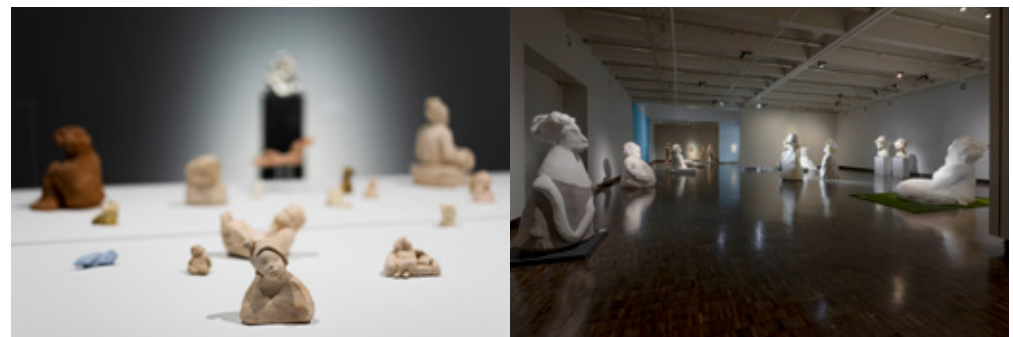
2019年度 女子美術大学退職教員記念展として、本学芸術学部アート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域講師の横山純子先生と、芸術学部美術学科立体アート専攻教授の藤倉久美子先生の作品展覧会を、各担当校地にて開催しました。長年にわたり教鞭をとり、後進の育成に携わるとともに、作家として創作活動に取り組んできたお二人の幅広い活動の軌跡をご覧いただくことにより、本学の教育方針へのご理解が一層深まる機会となりました。



2019.11.29(金) - 12.18(水) 杉並 女子美ガレリアニケ

杉並キャンパスで開催した横山純子先生の退職教員記念展では、作家として制作を続けてきたフォトグラムによる作品を中心にご紹介しました。写真の原理を体感できるフォトグラム技法を用いて写し出された像は、見えているものだけでなく見えていないものが作り出す光の流れが可視化されます。

自然の営みそのままが定着されたそれらの像からはさまざまな物語が紡ぎ出されます。関連イベントでは、横山先生によるワークショップ(「サイアノタイプ 懐かしい日光写真」印画紙から作る簡単な写真体験)を開催し、一般の方にも写真表現の楽しさを体験していただきました。



撮影:末正真礼生

2020.1.8(水) - 1.28(火) 相模原 女子美アートミュージアム

相模原キャンパスで開催した藤倉久美子先生の退職教員記念展では、女子美術大学在学中の作品から、2019年の新作品に至る軌跡をたどる展覧会となりました。展示作品はブロンズや石膏、布など多岐にわたります。そのなかには、作品に触れるだけでなく、座ることのできる彫刻が2点展示されました。視覚だけでなく触覚を手掛かりにして、作品世界を探索するという体験が鑑賞者に提供されました。それは、作品を

間近で鑑賞することができるだけでなく、視覚では捉えにくい素材のもつテクスチャーや温度といった特性を、触覚を通して体感的に感じ取ることができたといえます。一度身体感覚を用いた鑑賞をすることにより、他の作品を鑑賞する際にも触り心地を想像したり、様々な素材に興味関心を引き起こすこととなり、藤倉先生の作品の素材や技法の多様さに改めて気付かされる展覧会になりました。



女子美術大学広報誌

発行 学校法人女子美術大学
〒166-8538
東京都杉並区和田1-49-8
企画・編集 総務企画部広報グループ
監修担当 佐藤真澄・松山智一
デザイン協力 株式会社 Kitchen Sink.
印刷 株式会社ヒーローズ
発行日 2020年5月20日
©2020学校法人女子美術大学

広報グループでは女子美のニュースを募集しています。お気軽に下記までお知らせください。また、本誌の定期購読をご希望の方はお送り先を広報グループまでご連絡ください。

広報グループ | TEL 042-778-6123
E-mail prs@venus.joshi.ac.jp
URL <https://www.joshi.ac.jp>